

今、利府町がアツイ!!

講座

ワー

交流会

アーティスト

IT

お買い物

マルシェ

音楽

イベント

バンド

駅前に、2016年11月に出現した「tsumiki」。この施設が出来たことで、少しずつ町に変化が起こりつつある。今まで別々のところで、個々に活動をしていた人たちがtsumikiで出会い、ゆるやかなつながりが生まれている。

例えば、tsumikiで開催した交流会や、講座やトークイベントなどに参加した有志が、団体を立ち上げ定期的に集まり、利府を楽しく盛り上げていこうという活動も始まった。また、音楽やアート活動を行う人々が、活動の場を求めていることも分かってきた。利府町内を会場に音楽フェスを開催したいという動きもある。一方で、「こ・あきない市」や「もくようマルシェ」などをきっかけに、町で創作活動をしていた作家たちが小商いを実践する場を設け定着させようとしている。

今年4月14日に実施された「利府街道まつり前夜祭」は、町内の多方面で活動していた人々が実行委員会をつくり、企画から運営までを担いイベントを成功に導いた。当日は、多くの方々が来場し大盛況。まさに町民が主役となる自発的な活動の始まりを印象付けた。このようにさまざまな人々が結びつき動き出した要因は何か。まだまだ埋もれているまちの可能性について、tsumikiのスタッフが、それぞれの分野で活動する方々に話を聞いてみた。



利府街道まつり前夜祭の様子



動かないとはじまらない。

「りふくる」メンバー
YouTubeクリエイター・WEBプロデューサー
佐藤大輔さん

tsumikiディレクター
桃生和成

2016年春、転職を機に妻の実家である利府町に越してきた佐藤さんは、東京で培ったITや会社経営のノウハウを活かせないかと日々模索していた。そんな時、インターネットでtsumikiの存在を知り、足を運んだ。これまで何の縁もなかった町。何か地域に貢献したいと思っていたけど知り合いもなく二の足を踏んでいたが、tsumikiの利用者たちとの出会いがきっかけとなって動き出す。

東京に住んでいた頃に東日本大震災

を経験した佐藤さんは、働きながら東北に足を運び、ボランティアとして復興支援の活動に関わっていた。その中で、お金だけを優先するのではなく、人に喜んでもらえることをしたいと考えようになったという。現在は、メンバーおよそ10人とともに、2017年8月にまちおこし支援協力会「りふくる」を立ち上げ、利府町



の活性化を目的に活動を始めている。まち歩きをして町の魅力を再発見したり、地元の方々に集まってもらい語り合う様子を動画に収め、ライブ配信し等身大の利府町の姿を紹介したりしている。活動が始まったばかりでメンバーの熱量にはまだまだ差があるものの、定期的なミーティングの場を設け、それぞれのアイデアや活動に対して意見交換を行っている。佐藤さんにも構想がある。「YouTuberを目指す子どもたちが増えています。東京ではYouTuberアカデミーといわれる教室が本格的に始動していて、一つの仕事として注目が集まっています。東北ではまだそういった動きが少ないので、東北でいち早くアカデミーを立ち上げたいですね。利府からも新しい仕事を生み出すことができますと思います」。

「動かないとはじまらない」と話す佐藤さん。今年4月に行われた利府街道まつり前夜祭で実行委員会にYouTuber体験教室を提案し、子どもたちに大人



▲YouTuber体験教室

気の企画となった。有言実行がまちの未来と可能性を切り開く。



「りふくる」は、利府を盛り上げようと活動している市民団体です。最新情報はtwitter@[rifukuru] メンバー募集中!

音楽をとおして若者たちとともに成長する

RIFU ROCK FEST. コーディネーター
市民シンガー/ヒューマニティーアーティスト
ささきしょうたさん



tsumikiコーディネーター
佐藤陽友



利府町在住で介護福祉士として働きながら、市民活動などに関わっているささきさん。さまざまな活動に参加してきた中で、「今、少しずつ自分の考えに変化が起こっている」という。「これまでジャンルがバラバラだった活動を、一人の共通するマインドや理念に統一することができるのではないかと考え、自身を「ヒューマニティー・アーティスト」と名乗り始めた。人の成長する姿や、交流する様子を一つのアートとして捉え、成長と交流を仕掛けたり促したりすることが「ヒューマニティー・アーティスト」の役割だと語る。

名乗り始めたきっかけは、tsumiki交流会で出会った利府町在住アーティストのすがわらじゅんいちさんの一言だった。それは集った人たちに、「利府町のアーティストのささきしょうたさんです」と紹介してくれたこと。その一言で「自分はアーティストでいいんだ」と気付いたという。高校生の頃から、楽器は弾けないがバンド活動を始め、ボーカルを務めてきた。大学生・社会人になって音楽から遠ざかっていたが、2015年頃から音楽活動を再開。作家活動も行う。今年の3

月には、利府町の高校生バンドを中心に集めたRIFU ROCK FEST.を主催した。実際にイベントをやってみて、プロジェクトの運営、他者とのコミュニケーション、業種や職種の垣根を越えて若者とともに協働していくことに手応えと難しさを感じている。若者が成長する場を設け、ともに成長していくこと。これこそ「ヒューマニティー・アーティスト」としての活動の第一歩だった。tsumikiができて、同じ町内の熱量のある人と知り合い、自分の活動に変化が起こったように、利府町に住んでいる人たちと町のポテンシャルは高いと感じている。その上で町民同士、新たなつながりが生まれることが、利府町のさらなる可能性を高めていくことだと語る。



▲RIFU ROCK FEST.の様子



石澤さんは、結婚を機に神戸から仙台に引っ越し、2016年から夫の実家がある利府町で暮らす。その頃tsumikiがオープンし、交流会などに参加。現在は「もくようマルシェ」に「ALOHINA」の屋号で出店しアクセサリ制作・販売を行っている。

利府の町の第一印象は、「チャンスがあるのに活かしてない町」だという。グランディ21という大きなコンサート会場があるのに、宿泊施設や商業施設が少なく、滞在する場所がない印象。駅を利用するついでに立ち寄れる場所もない。石澤さんは「暮らしに必要なものは、可能ならすべて利府の町内でまかないたいんです」といい、「お茶をしたりお買い物をしたいと思った時に、フランチの店ばかりではつまらないでしょ」と駅周辺の利便性が上がり面白みが増すことで、さらに暮らしやすくなるという。そうした中、利府駅前にtsumikiができたことをきっかけに、個々の秘めたパワーが芽を出し、新しいことが動き始めていると感じている。関わっている「もくようマルシェ」も、一人で活動していた出店者が集まり、お互い情報交換



をしながら回を重ねるごとに、パワーアップしている。このマルシェは小規模だが、お客様と丁寧に話をしながら、一人ひとりのオーダーにも対応できることが魅力。石澤さんは「これからは物を買うだけでなく『体験』の需要が増えてく」と予測し、「年代も性別も問わずいろいろな人が関わるマルシェに育てていきたい」という。隣近所の交流が希薄になっている現代において、気軽に足を運べて安心して集える場所が必要。「これからは人を癒やす仕事が必要とされると思うんです。昔の駄菓子屋のおばちゃんみたいな『町のおかあさん』になりたいなあ」と想いは膨らむ。面白い人が集まるところが、面白い場所になってくる。tsumikiを基点に利府町の進化に期待を寄せる。

秘めたパワーがじわじわと芽を出し始めている

もくようマルシェ実行委員
アクセサリ作家・ALOHINA(アロヒナ)
石澤由佳さん

tsumikiコーディネーター
板橋芳理



旧利府街道・大町界限

案内人●観光ボランティアガイド 渋谷金男さん・櫻井勝男さん



ショウユヤ(醤油屋)



利府駅前

利府駅構内の利府町コミュニティセンター内にある利府町観光協会からスタート。

三十三観音堂



昔から宿場街道を行く人々は、留守宅の家の安全と旅の無事を祈願したんですよ。三十三観音様は、みんなの願いを叶え、救済してくれるといわれています。

長龍寺・三十三観音堂

- クドヤ(電屋)
- 町内から野中岩を切り出し、カマドに加工し販売。
- ワダヤ(綿屋)
- バクロウヤ(馬喰屋)
- 農耕・荷物運搬用馬の売買。

長龍寺と旧利府街道

●キムラダイクさん(宮大工)



鼻取地蔵尊

当時は、ソバ屋が2軒並んでも商売が成り立つほど、このあたりが賑わっていたと想像できますね。

櫻井さんはサンゴヤの10代目

田の代掻きをするときに、牛の鼻のところに竹の棒を取り付けて引いて歩くことを「鼻取り」といいます。年輩いた百姓夫婦が鼻取りする人がいなくて困っていると、一人の見知らぬ子どもがやってきて手伝ってくれたという言い伝えから、人手の足りないときにお参りすると、思いがけない人が手伝いにやってくるといわれています。

●十符の里プラザ(旧利府役場)

●ジュンサ(交番・駐在所)

●ユウビンキョウ(郵便局)

●タガヤ(簀屋)

桶の箍をかける職人。

八幡神社



利府町で一番古い建物で、貞観11年(869年)に起こった貞観地震による大津波で今の多賀城から流れてきた八幡様をお祀りしたのが始まりといわれています。そして、東日本大震災でも倒れなかったのがスゴイよね。



地震の時、土台と柱がずれた跡。今なお残る屋号や神社仏閣は、利府のまちのルーツを伝える貴重な財産ですね。



生まれ育った利府で 津軽三味線の魅力を伝えたい

津軽三味線ユニット「ゆりあい」は利府町出身の姉妹、柴田佑梨さん（1987年生まれ）、愛さん（1991年生まれ）の2人組。東京・下北沢のカフェで定期的に開催するライブのほか、「利府街道まつり前夜祭」や「十符の里ー利府」フェスティバル（利府町）、「GAMA ROCK FES」（塩釜市）、「松島パークフェスティバル」（松島町）など、地域のイベントにも積極的に出演しています。

兄を追い、津軽三味線奏者に

「ゆりあい」の2人が津軽三味線を始めたのは2002年。佑梨さんが15歳、愛さんが10歳の頃でした。2人の目には、その1年ほど前から津軽三味線を始めていた兄・雅人さんの姿が映っていました。佑梨さん「お兄ちゃんは毎日、家にいる間はずっと三味線を弾いていました。そんなに熱中できるものを、私もやってみたいと思ったんです」愛さん「お兄ちゃんが出場する大会に応援に行って『私も出たい』って。私より小さい子がカッコよく演奏して

た」

佑梨と愛で「ゆりあい」発足

「柴田三兄妹」としての活躍の場を広げ続ける一方で、佑梨さんと愛さんは2015年に「ゆりあい」を結成。3人組とは違ったスタイルでの活動を開始しました。佑梨さん「3人での演奏は真真中の支柱がある感じで、安心感があります。お兄ちゃんが私たちの音を全部聞いているので緊張感もありますね」愛さん「それに対して、2人だと、ステージを全力で楽しも感じます」佑梨さん「曲の合間の2人のやりとりもゆるくて面白いと言ってくれる人が多いです」愛さん「弾きながら歌うことも多いです。演奏の幅も広がるし、歌うことでより身近に感じてもらえると思うので」

姉妹とはいえ、プレイヤーとしてのタイプは真逆だという2人。佑梨さん「私は不器用で、何回も練習しない曲が体に入ってこない。でも妹は天才肌で、教わったことをスッとこなせてしまうんです」愛さん「楽譜の扱いとか理論的なことは私は苦手、いつも姉に頼っています。お互いにタイプが違うから、釣り合うんだと思います」

津軽三味線は、複数の奏者が同じ音を弾くことで厚みと迫力が増すのが魅力です。特に「柴田三兄妹」や「ゆりあい」の演奏は、兄妹ならではの一体感が強みです。

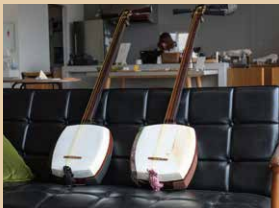
佑梨さん「私たちは、それぞれが弾いた音と一緒に一つに聞こえるようにということを常に目指しています。だからステージでそれができると、ニヤッと目が合ったりしますね。そこには、家族だからこそ通じる感覚があるのかもしれない」愛さん「言葉を交わさなくても、音で会話しているような感じですね」

地元に根ざした活動を続けたい

現在、雅人さんが東京を拠点に活動しているのに対し、佑梨さんと愛さんはあくまで利府が本拠地です。佑梨さん「いろいろな土地で演奏する機会がありますが、素の自分が落ち着けるのは生まれ育った利府なんです」愛さん「作曲する時も、自分の生まれたところでしかできない曲があります。愛犬と館山を散歩すると新しい音が浮かんできたりするんです」

2018年の4月からは三味線を教えるレッスンも始めた2人。自分たちの故郷である利府で、津軽三味線の魅力を広めたいとの思いがあります。

佑梨さん「少しでも興味がある人は、気軽に試してほしい。無料体験もできるし、楽器もお貸しできますので」



利府町で暮らす面白い人を毎号紹介していきます

十符（とふ）とは？ ……昔、利府町の湿地帯には、良質な菅（スゲ）草が自生し、「菅薦（スガコモ）」と呼ばれる敷物が作られていました。その菅薦の編み目が10編あることから「十符の菅薦」と呼ばれ、みちのくの「歌枕」としてもうたわれていました。これが、「十符の里」「十符の浦」と呼ばれるようになり、十（と）が利（と）に、符が府に変わったと言われています。

— CHALLENGER

けしゴムはんこ tom☆
はせがわ ともこ
長谷川 智子さん



—— けしゴムはんことの出会い

けしゴムはんこ作家として活動している長谷川さん。tsumikiで開催する「こ・あきない市」に、初回から参加しています。制作時間は、いつも家事の合間や育児が落ち着く夜になってから。「細かい作業が好きで、作業に没頭するといつのまにか寝る時間がなくなっちゃうんです」と忙しい毎日をはんこ作りが楽しくしてくれと言います。山梨出身の長谷川さんは、結婚・出産を機に宮城へ移り、利府に住んで3年ほどが経ちます。けしゴムはんこに出会ったのは、上のお子さんがまだ1歳だったころの7年前。ワークショップに参加したのがきっかけでした。「これなら自分も作れるんじゃないか」とけしゴムはんこを彫り始めました。最初は自分の子ども用に。作りためた作品は、周囲のママ友にプレゼントしていました。

—— こ・あきない市へのチャレンジ

趣味として続けていたはんこ作りでしたが、転機となったのはtsumikiの「こ・あきない市」。回覧板に入っていた2017年2月開催「こ・あきない市出店者募集」のチラシを目にし、「作ってきたはんこを販売してみよう！」と出店を決意。オリジナルはんこの販売と、お客さんが希望する名前やイラストの注文に応じるオーダーメイドのはんこ作りにもトライしました。その後、毎月1回tsumikiで行われる「もくようマルシェ」にも参加。「小さなスペースだけど、お店を出す楽しさが味わえます」とやりがいを感じています。

—— 利府のけしゴムはんこ屋さん！

tsumikiのイベントをきっかけに人脈が広がり、作家さん同士のつながりもできました。「長く続けて、『利府のけしゴムはんこ屋さん』として認識してもらえようになればいいな」と話します。長谷川さんの作るはんこは、ころころと小さくて可愛いミニはんこや、実用性のあるはんこさまざま。「いろいろなイベントに出店するようになりオーダーも増え、今はその制作に追われていますが、とても充実しています」とうれしそうです。はんこ販売の他に、ワークショップを行いはんこ作りの楽しさを人々に広めている長谷川さん。「これからは利府町以外でも、チャレンジしていきたいです」と長谷川さんのはんこ作りはどんどん広がっていきそうです。

取材・文 tsumikiライター・宮城大学4年 鈴木沙葉

“ けしゴムはんこで日常に彩りを！
新しいモチーフや
図案の制作に、研究の日々 ”

持ち物の名前や連絡帳のサインに役立つ便利はんこが好評です



— INFORMATION

けしゴムはんこ tom☆
✉ ktmh3689@ezweb.ne.jp
☎ 090-8561-5351
Instagram @keshi_han_tom

tsumiki INFORMATION

2018.7

「こ・あきない市」開催

新しい仕事づくりのきっかけとして、チャレンジの場として実施してきた利府町チャレンジマーケット「こ・あきない市」。利府町内外から出店者が集まり、多くの来場者でにぎわいました。2018年度は、次のとおり年3回開催予定です。

開催予定
2018年7月15日（日）
2018年11月11日（日）
2019年2月17日（日）

「こ・あきない塾」第2期 9月開講

「好きなことを仕事にしたい」「いつか自分のお店をもちたい」。ちいさいビジネス、小商いを実現させるため、実践者の話を聞いたり、現場を訪問したりしながら、具体的に実現可能な方法を見つけていく連続セミナーを開催します。キックオフとして、第1期生報告会と公開講座を行います。

2018年9月15日（土）13:30～16:00
ゲスト 橋本陵加さん
SOBA café さらざん店主／京都
【参加費】500円（ワンドリンク付）
【定員】30人
※塾を受講しない一般の方でもご参加いただけます。

「しゃべりBAR」オープン

何か活動してみたい人。人脈を広げたい人。気軽に集まってトークしませんか。参加者同士やスタッフと、ゆる～くつながる交流会です。

開催予定
8月24日（金）／10月26日（金）／12月21日（金）
各回19:00～21:00 ※予約不要です。

各種イベント・講座のお申し込み

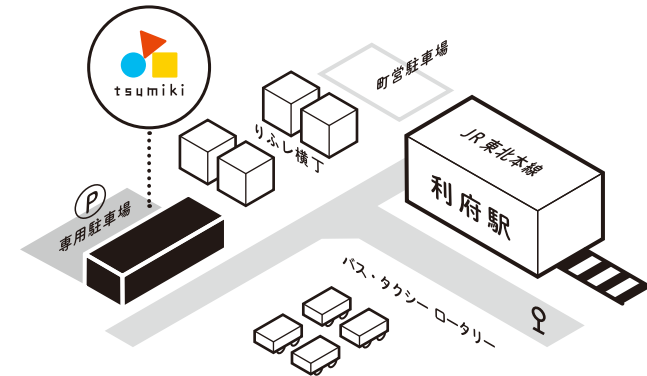
TEL 022-766-9231 [E-mail] info@rifu-tsumiki.jp
お名前（ふりがな）・電話番号・メールアドレスをお知らせください。



利用時間
9:30-17:30
（水・金曜日は21:00まで開館）

休館日
火曜日・年末年始

〒981-0104
宮城県宮城郡利府町中央 1-5-2
TEL 022-766-9231
FAX 022-766-9232
Email info@rifu-tsumiki.jp



設置者 利府町（政策課政策班）

利府町では、地方創生に向けて良好な環境に「ワクワク感」をプラスした魅力的なまちづくりを進めています。政策課政策班は、地方創生の総括部門として「利府ならではの」シティセールス政策や、移住・定住政策などに取り組んでいます。

管理運営（業務委託者） 一般社団法人Granny Rideto

Granny Rideto（エスプレント語）は、日本語で「おばあちゃんの笑顔」と訳します。これから高齢化社会を迎える中で、おばあさんになっても笑顔で暮らせる社会をつくりたいという意味が込められています。同時に「Granny」には「おせっかい」という意味があり、地域のおせっかいをやく役割を担うという意味が込められています。

公式ウェブサイト
rifu-tsumiki.jp

Twitter
@rifu_tsumiki

Facebook
〈tsumiki〉で検索

Instagram
@rifu_tsumiki

つみきのまち号 vol.07 発行日●2018年7月13日 発行●利府町
企画●一般社団法人Granny Rideto 編集●葛西淳子・桃生和成（一般社団法人Granny Rideto） デザイン●homesickdesign